

CONTENTS

熊本地震 写真で見る復興への道のり

はじめに

第1章 熊本地震 被害の概要

地震発生	18
人的被害	19
その他の被害	20
避難状況	20
災害公営住宅	23
地震による経済状況	23
被災者支援のあり方	24

第2章 「三者連携」熊本の実践

なぜ三者連携なのか 「ボランティア元年」以降の進化と課題	26
起点は東日本大震災の「反省」	27
欠かせない民間の力	28
県域初の情報共有会議「火の国会議」	32
目指すは課題解決	35
三者連携…多様な主体	40
強みを発揮、だから「三者」で	42
NPOの個性、専門性を発揮	43
三者をつなぐ「中間支援」の役割	47
行政との接点…もう一つの会議体	48
より身近に…市町村域でも	48
イニシアチブは誰が…社協、NPOなどの調整・つなぎの重要性	51
〈まとめ〉点と点をつなぐ被災者支援コーディネーションが要	54

第3章 復興期の支援

「格差」と「平時の課題」	58
仮設住宅入居者（建設型、借り上げ型）支援	58
地域支え合いセンターの実践と課題、NPOの連携	63
在宅被災者支援	66
県外避難者支援	67
復興期における支援団体の関与のあり方	69
〈まとめ〉タイミングとキーパーソンを見極め、きめ細かな支援を	75

第4章 地域力強化へのサポート

地元主導の生活再建を支える人材育成	81
「支援」を支える－支援金と助成金	89
〈まとめ〉資金だけでは成し遂げられない真の復興	94

第5章 コロナ禍が突き付ける課題とヒント

コロナ禍への危惧と備え～事前の動き	98
県境が阻んだ支援のつながり	100
在宅避難の拡大	110
コロナ禍の三者連携	117
〈まとめ〉コロナ禍での災害支援活動から得られた教訓	120

第6章 実践者に聞く

体制つくる行政、実働する社協、「もれ」埋めるNPO 「人と人との結び付き」で連携が可能に	124
◎熊本県社会福祉協議会参与 吉本 裕二さん	
◎熊本県社会福祉協議会職員 池尻 憲二さん	
◎特定非営利活動法人くまもと災害ボランティア団体ネットワーク (KVOAD) 代表理事 樋口 務さん	
経験者の助言もとに支援団体を見極め つながり生かし町の防災力高めたい	129
◎熊本県益城町危機管理課長 岩本 武継さん	
情報共有会議で得た成果を課題解決へ 重要なのは支援に対する共通認識	132
◎特定非営利活動法人全国災害ボランティア支援団体ネットワーク (JVOAD) 事務局長 明城 徹也さん	
被災者ニーズに対応する支援者を支援 「誰一人取り残さない」を实践したい	135
◎特定非営利活動法人まもと災害ボランティア団体ネットワーク (KVOAD) 事務局次長 岳中 美江さん	
住民主導で支援の「隙間を埋める」 「この指とまれ」で募り課題解決に	138
◎熊本県大津町長 金田 英樹さん	
民間は「行政ができないことをやる」 多様な主体が協働できる土台づくりを	141
◎「災害支援ネットワークおかやま」世話人 石原 達也さん	

第7章 支援者のつながりの変化を見る

NPOの活動と連携会議体の設置	146
課題の変化と民間支援連携	147
支援ネットワークを俯瞰してみる	149
〈まとめ〉ネットワークが支援のもれやむらの防止に果たした役割	155

第8章 挑戦し続けた6年、挑戦し続けるこれから

初めての計画された支援連携	158
---------------	-----

あとがき	164
------	-----

参考資料	167
------	-----